

## 平成 27 年度 技術者研修会報告

「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取り扱い・保管要領(案)・同解説」について

平成 27 年度技術者研修会が平成 28 年 1 月 22 日に開催されました。

この技術者研修会は日本応用地質学会北海道支部、北海道応用地質研究会、北海道地質調査業協会の共催で毎年開かれているもので、主に若手の地質技術者を対象として応用地質学の基礎知識の習得、仕事に活用できるような最新技術を学ぶことを目的として行われてきました。したがって、これまでの研修会では前半に講義、後半に実習といったプログラム構成で実施してきました。実習の内容としては、地質図の書き方、空中写真の実体視と写真判読、特に地すべり地形の判読、室内土質試験や岩石試験の実習など、仕事に活用できる実践的な技術を取得できるようなプログラムを組んできました。

今年度は、講義のみの研修会となりました。これは昨今の地質調査業を取り巻く社会環境が大きく変わりつつあり、それに対応するための地質調査技術者の役割が従来とは比べ物にならないほど大きくなってきたことから、これを機会に、我々を取り巻く社会環境の変化の内容とそれに伴う要領の改定、システムの整備などをまとめてお知らせする、ということ、盛りだくさんの内容になったことがその理由です。

そのような背景を反映したためか今年度は参加希望者が多く、人数制限をせざるを得ないほどの盛況ぶりでした。本来若手技術者を対象としていた研修会という位置づけでしたが、今年度はある程度経験を積んだベテラン技術者の参加が多かったことも特徴としてあげられると思います。

今年度研修会のタイトルは『「ボーリング柱状図作成及びボーリングコア取り扱い・保管要領(案)・同解説」について』ということで、同要領改訂に携わってこられた日本応用地質学会理事の原 弘氏に東京からお越しいただき、改定の経緯や内容についてご講義いただきました。

今後必要とされる盛りだくさんの内容を参加者の皆さんは真剣に聞いていましたが、なかでもコア写真の撮り方に関する説明にはひとしお関心を持ったようで、講義後にはその

ことに関する質問が多く出されました。

本要領（案）は今後予定される「地質・土質調査成果電子納品要領（案）」の改定に合わせた内容となっており，参加者にとっては電子納品に関して今後必要となる「地質情報管理士」という資格取得に向けて大いに参考になる内容だったと考えられます。

また，最近の情勢として，コンピュータや通信技術の進化とインフラ整備などにより，地質情報というものが一般国民が直接目に見える形で公開される，という現実が到来しています。これまでの発注者のみに限られていた情報を，今度は一般国民に向けて広く開放されるということを意味しているわけで，地質情報が国民の共有財産であるという認識がもたれつつある，ということがいえると思います。

そのような情勢の中で各機関が整備を進めている地質情報のデジタル化・公開の現状に関して，3名の講師の方々からの話題提供がありました。

国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所の倉橋 稔幸 氏には，全国の各機関で所有しているボーリングや各種試験データを検索できる国土地盤情報検索サイト「KuniJibann」についてご講義いただきました。また地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 地質研究所の野呂田 晋 氏には，道内に分布する複数の代表的な地質を対象に、ヒ素など有害物質の溶出量及び含有量と地質との相関から地質ごとのリスクを提示する情報システム「GRIP」についてご講義いただきました。さらに，株式会社 ドーコンの田近 淳 氏には，地すべり地形 GIS データを Web-GIS で公開している「北海道の地すべり地形分布図」について，あわせて地すべりに関する最近の話題についてご講義いただきました。

今年度の研修会は講義のみの内容でしたが，タイムリーな題材を各専門分野の講師の方々にお話しいただきました。若手のみならずベテラン技術者にとっても，今後仕事を進めるうえで欠かすことのできない情報ばかりで，参加者にとって非常に有意義な内容だったと考えています。ご講義いただいた講師の各氏に改めて感謝し，また参加された方々が講義内容を活用されて益々ご活躍されますよう祈念いたします。

技術アドバイザー 横田 寛